

米国3倍4資産リスク分散ファンド (毎月決算型) (愛称：アメリカまるごとレバレッジ (毎月決算型))

<3399>

追加型投信／海外／資産複合

日経新聞掲載名：米3倍4資産

第6期	2020年4月13日決算	第9期	2020年7月13日決算
第7期	2020年5月11日決算	第10期	2020年8月11日決算
第8期	2020年6月11日決算	第11期	2020年9月11日決算

受益者のみなさまへ

毎々、格別のご愛顧にあずかり厚くお礼申し上げます。

当ファンドは、米国の株式、リートおよび債券ならびに金を投資対象とし、先物取引等を活用した分散投資を行ない、信託財産の成長をめざしております。当作成期につきましてもそれに沿った運用を行ないました。ここに、運用状況をご報告申し上げます。

今後とも一層のお引立てを賜りますよう、お願い申し上げます。

第11期末	基準価額	11,013円
	純資産総額	300百万円
第6期～第11期	騰落率	8.8%
	分配金合計	520円

(注) 騰落率は分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなして計算したものです。

大和アセットマネジメント

Daiwa Asset Management

大和アセットマネジメント株式会社
東京都千代田区丸の内一丁目9番1号
<https://www.daiwa-am.co.jp/>

運用報告書に関するお問い合わせ先



コールセンター 受付時間 9:00～17:00 (営業日のみ)
0120-106212

お客様の口座内容に関するご照会は、
お申し込みされた販売会社にお問い合わせください。

■当ファンドは、信託約款において「運用報告書(全体版)」に記載すべき事項を電磁的方法によりご提供することを定めており、以下の手順で閲覧、ダウンロードいただけます。「運用報告書(全体版)」は受益者の方からのご請求により交付されます。交付をご請求される方は、販売会社へお問い合わせください。



見やすく読みまちがえにくい
ユニバーサルデザインフォント
を採用しています。

◇TKU0339920200911◇

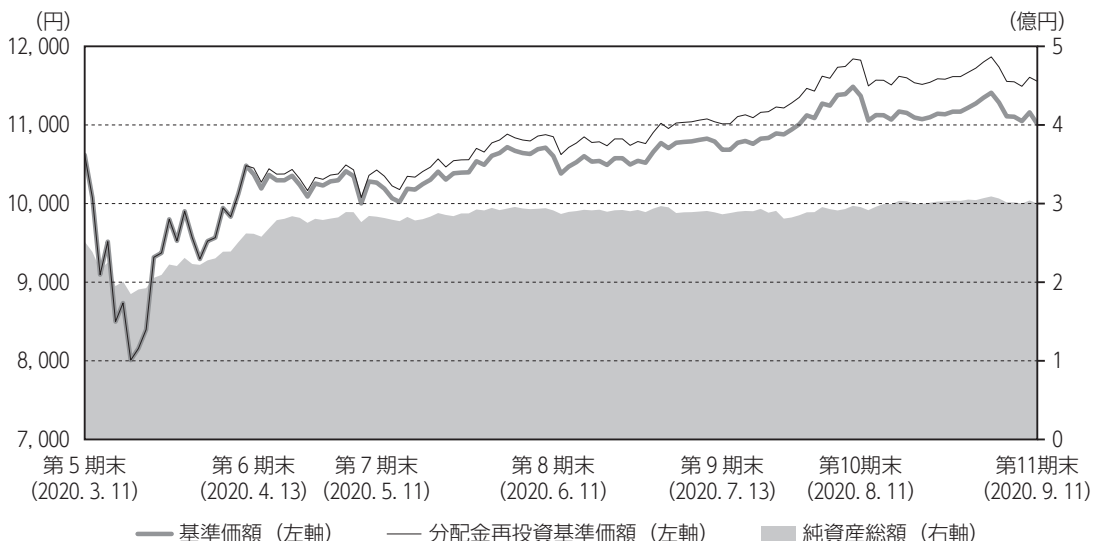
「運用報告書(全体版)」の閲覧・ダウンロード方法

上記のURLにアクセス → ファンド検索欄にファンド名を入力 → リストから当ファンドを選択 → 運用報告書(全体版)を選択



運用経過

基準価額等の推移について



* 分配金再投資基準価額は、分配金（税込み）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。

* 分配金を再投資するかどうかについては、お客さまがご利用のコースにより異なります（分配金を自動的に再投資するコースがないファンドもあります）。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、お客さまの損益の状況を示すものではありません。

基準価額・騰落率

第6期首：10,619円

第11期末：11,013円（既払分配金520円）

騰落率：8.8%（分配金再投資ベース）

基準価額の主な変動要因

主に金価格の上昇や米国株式市況の上昇、米国金利の低下（債券価格は上昇）を受けて、当作成期の基準価額は上昇しました。くわしくは「投資環境について」をご参照ください。

1万口当りの費用の明細

項 目	第6期～第11期 (2020. 3. 12～2020. 9. 11)		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
信 託 報 酬	59円	0.567%	信託報酬＝当作成期中の平均基準価額×信託報酬率 当作成期中の平均基準価額は10,490円です。
(投 信 会 社)	(23)	(0.221)	投信会社分は、ファンドの運用と調査、受託会社への運用指図、基準価額の計算、法定書面等の作成等の対価
(販 売 会 社)	(35)	(0.332)	販売会社分は、運用報告書等各種書類の送付、口座内での各ファンドの管理、購入後の情報提供等の対価
(受 託 会 社)	(1)	(0.014)	受託会社分は、運用財産の管理、投信会社からの指図の実行の対価
売 買 委 託 手 数 料	6	0.062	売買委託手数料＝当作成期中の売買委託手数料／当作成期中の平均受益権口数 売買委託手数料は、有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
(先物・オプション)	(5)	(0.051)	
(投資信託受益証券)	(1)	(0.010)	
有 価 証 券 取 引 税	0	0.000	有価証券取引税＝当作成期中の有価証券取引税／当作成期中の平均受益権口数 有価証券取引税は、有価証券の取引の都度発生する取引に関する税金
(投資信託受益証券)	(0)	(0.000)	
そ の 他 費 用	3	0.027	その他費用＝当作成期中のその他費用／当作成期中の平均受益権口数
(保 管 費 用)	(2)	(0.016)	保管費用は、海外における保管銀行等に支払う有価証券等の保管および資金の送金・資産の移転等に要する費用
(監 査 費 用)	(0)	(0.004)	監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用
(そ の 他)	(1)	(0.006)	信託事務の処理等に関するその他の費用
合 計	69	0.655	

(注1) 当作成期中の費用（消費税のかかるものは消費税を含む）は追加、解約によって受益権口数に変動があるため、項目の概要の簡便法により算出した結果です。

(注2) 各金額は項目ごとに円未満を四捨五入してあります。

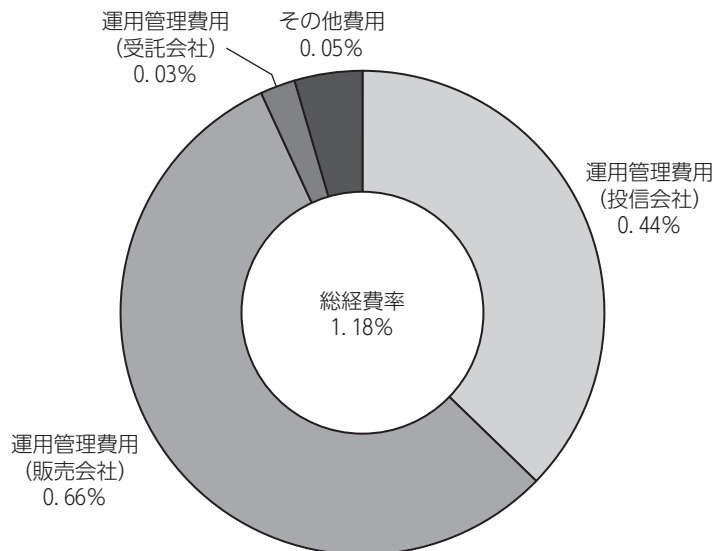
(注3) 各比率は1万口当りのそれぞれの費用金額を当作成期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、小数点第3位未満を四捨五入してあります。

(注4) 組み入れているマザーファンドがある場合、売買委託手数料、有価証券取引税およびその他費用は、当該マザーファンドが支払った金額のうち、このファンドに対応するものを含みます。組み入れている投資信託証券（マザーファンドを除く。）がある場合、各項目の費用は、当該投資信託証券が支払った費用を含みません。なお、当該投資信託証券の直近の計算期末時点における「1万口当りの費用の明細」が取得できるものについては「組入上位ファンドの概要」に表示することとしております。

参考情報

■ 総経費率

当作成期中の運用・管理にかかった費用の総額を、期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額（1口当り）を乗じた数で除した総経費率（年率）は1.18%です。

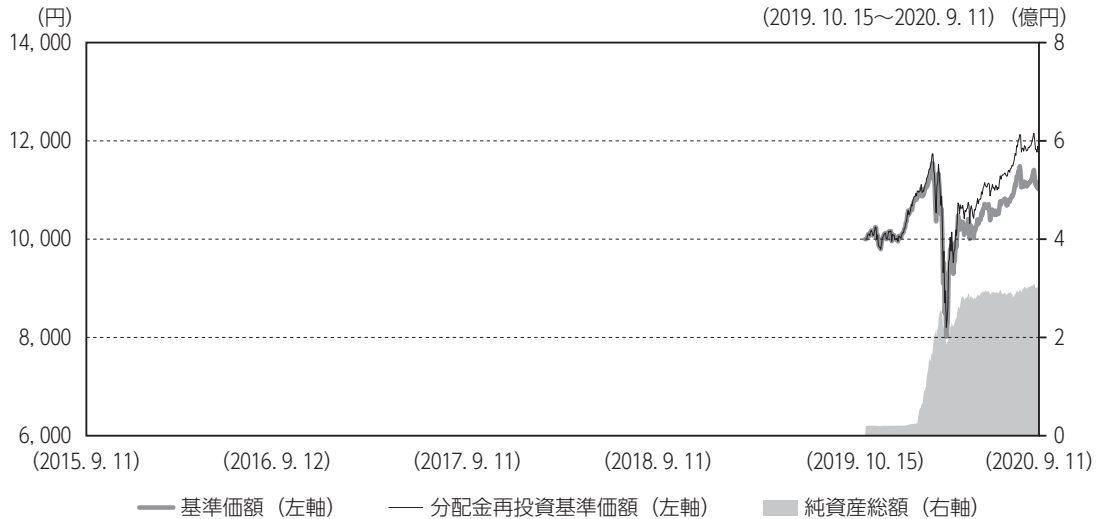


(注1) 1万口当りの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。

(注2) 各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を含みません。

(注3) 各比率は、年率換算した値です。

最近5年間の基準価額等の推移について



	2019年10月15日 設定	2020年9月11日 決算日
基準価額 (円)	10,000	11,013
期間分配金合計 (税込み) (円)	—	780
分配金再投資基準価額の騰落率 (%)	—	18.4
純資産総額 (百万円)	20	300

(注1) 比率は小数点第1位未満を四捨五入してあります。

(注2) 当ファンドは、ファンドの運用方針に対して適切な比較指数がないため、ベンチマークおよび参考指数を記載しておりません。

投資環境について

（2020. 3. 12 ~ 2020. 9. 11）

■米国株式市況

米国株式市況は上昇しました。

米国株式市況は、当作成期首から2020年3月下旬にかけて、新型コロナウイルスの感染拡大への懸念から大幅に下落しました。しかし3月下旬以降は、各国の大胆な景気刺激策や経済活動再開期待、新型コロナウイルス治療薬開発への期待などを好感し、大幅に上昇しました。9月に入ると、ハイテク株を中心に米国株式市況は下落したものの、当作成期を通してみると、上昇して当作成期末を迎えました。

■米国債券市況

米国金利は低下しました。

当作成期首から2020年3月下旬にかけては、市場の混乱を受けて現金化の動きが強まり、米国債を売る動きにもつながったことから金利は一時上昇しましたが、F R B（米国連邦準備制度理事会）が無制限の量的緩和政策を含めた各種の流動性供給策を実施したことで市場の落ち着いた見られはじめ、3月末にかけて金利は再度低下しました。4月から当作成期末にかけては、金利はおおむね横ばいでの推移となりました。

■米国リート市況

米国のリート市場は下落後、緩やかな戻り基調となりました。

当作成期首から2020年3月後半にかけて、米国リート市場は下落しました。世界的に新型コロナウイルスの感染が拡大する中、米国でもニューヨーク州などを中心に感染が拡大しました。人の移動は厳しく制限され、経済減速への懸念などが台頭し、リート市場は下落しました。4月は、積極的な金融・財政政策の発表や、長期的にみて割安なバリュエーション水準などから、戻りを試す展開となりました。5月から6月前半にかけては、新型コロナウイルスのワクチン開発や経済活動再開への期待感などから上昇しました。6月後半から7月にかけては、米国などで新型コロナウイルスの感染拡大が続いたことなどから、投資家の警戒感が高まり、軟調な推移となりました。8月から当作成期末にかけては、ワクチン開発進展への期待感や、世界的な金融緩和を下支えに持ち直しつつあるマクロ経済指標などを背景に、投資家のリスク選好は改善傾向となり、米国のリートは上昇しました。

■金市況

金価格は上昇しました。

当作成期首から2020年3月半ばにかけては、新型コロナウイルス問題への懸念が強まったことに

加えて原油価格が急落したことで信用不安が高まり、あらゆる資産を売って米ドルを買う動きになりました。そのため、通常は安全資産としての側面が強い金も大幅な下落を余儀なくされました。もっとも、金融市場が落ち着きを取り戻すと、金価格はすぐに値を戻しました。その後は、FRB（米国連邦準備制度理事会）をはじめとした各国の中央銀行による強力な金融緩和策などが支えとなり、堅調に推移しました。7月には、米中が互いに総領事館を閉鎖するなど両者の関係が一段と悪化したことも追い風となり、金価格は上昇ペースを加速させ、7月下旬に米ドルベースでの過去最高値を更新すると、8月上旬まで上昇が続きました。しかし、米国で新型コロナウイルスの新規感染者数が減少傾向に転じたことやワクチン開発への期待が高まったことで、経済の先行きに対する過度な悲観論が後退すると、上昇が一服し、その後は高値圏での横ばい推移が継続しました。

■為替市況

米ドル円は一進一退の推移となりました。

当作成期首から2020年3月下旬にかけては、市場の混乱が米ドル需要の高まりにつながったことから、米ドルは対円で上昇（円安）しました。しかし3月末にかけては、FRB（米国連邦準備制度理事会）を中心とした当局の対応を受けて市場が落ち着いたことから米ドル買いの動きが抑制され、米ドルは対円で下落（円高）しました。当作成期末にかけては、米国の良好な経済指標や新型コロナウイルスの第2波警戒を受けたリスク回避の動きなどを受けて上下する場面はあったものの、一進一退の動きとなりました。

前作成期末における「今後の運用方針」

■当ファンド

今後も、「米国3倍4資産リスク分散マザーファンド」の組入比率が通常の状態での高位となるように組み入れます。

■米国3倍4資産リスク分散マザーファンド

今後も主として、米国の株式、リートおよび債券ならびに金を投資対象とし、先物取引等を活用した分散投資により、信託財産の成長をめざして運用を行います。また、各投資対象の比率については、ポートフォリオ全体に占める各資産のリスク割合が均等となることを目標に毎月見直しを行います。

また、残存期間の短い米国国債にも投資を行います。

ポートフォリオについて

(2020. 3. 12 ~ 2020. 9. 11)

当ファンド

「米国3倍4資産リスク分散マザーファンド」の組入比率が高位となるように組み入れました。

米国3倍4資産リスク分散マザーファンド

主として、米国の株式、リートおよび債券ならびに金を投資対象とし、先物取引等を活用した分散投資により、信託財産の成長をめざして運用を行いました。各投資対象の比率については、ポートフォリオ全体に占める各資産のリスク割合が均等となることを目標に毎月見直しを行いました。

また、残存期間の短い米国国債にも投資を行いました。

ベンチマークとの差異について

当ファンドは運用の評価または目標基準となるベンチマークおよび参考指数を設けておりません。

分配金について

当作成期の1万口当り分配金（税込み）は下記「分配原資の内訳（1万口当り）」の「当期分配金（税込み）」欄をご参照ください。

収益分配金の決定根拠は下記「収益分配金の計算過程（1万口当り）」をご参照ください。

なお、留保益につきましては、運用方針に基づき運用させていただきます。

分配原資の内訳（1万口当り）

項 目	第6期	第7期	第8期	第9期	第10期	第11期
	2020年3月12日 ～2020年4月13日	2020年4月14日 ～2020年5月11日	2020年5月12日 ～2020年6月11日	2020年6月12日 ～2020年7月13日	2020年7月14日 ～2020年8月11日	2020年8月12日 ～2020年9月11日
当期分配金(税込み) (円)	80	80	80	80	100	100
対基準価額比率 (%)	0.77	0.77	0.75	0.74	0.87	0.90
当期の収益 (円)	2	—	80	80	100	—
当期の収益以外 (円)	77	80	—	—	—	100
翌期繰越分配対象額 (円)	668	588	671	751	1,408	1,308

(注1) 「当期の収益」は「経費控除後の配当等収益」および「経費控除後の有価証券売買等損益」から分配に充当した金額です。また、「当期の収益以外」は「収益調整金」および「分配準備積立金」から分配に充当した金額です。

(注2) 円未満は切捨てており、当期の収益と当期の収益以外の合計が当期分配金（税込み）に合致しない場合があります。

(注3) 当期分配金の対基準価額比率は当期分配金（税込み）の期末基準価額（分配金込み）に対する比率で、ファンドの収益率とは異なります。

■収益分配金の計算過程（1万口当り）

項目	第6期	第7期	第8期	第9期	第10期	第11期
(a) 経費控除後の配当等収益	✓ 2.87円	0.00円	✓ 2.62円	✓ 19.81円	✓ 2.57円	0.00円
(b) 経費控除後の有価証券売却等損益	0.00	0.00	✓ 160.34	✓ 139.55	✓ 754.07	0.00
(c) 収益調整金	✓ 731.19	✓ 668.42	588.57	593.87	604.82	672.29
(d) 分配準備積立金	✓ 14.16	0.00	0.00	78.45	146.96	✓ 736.24
(e) 当期分配対象額 (a+b+c+d)	748.22	668.42	751.54	831.69	1,508.44	1,408.54
(f) 分配金	80.00	80.00	80.00	80.00	100.00	100.00
(g) 翌期繰越分配対象額 (e-f)	668.22	588.42	671.54	751.69	1,408.44	1,308.54

(注) ✓を付した該当項目から分配金を計上しています。



今後の運用方針

■当ファンド

今後も、「米国3倍4資産リスク分散マザーファンド」の組入比率が通常の状態での高位となるように組み入れます。

■米国3倍4資産リスク分散マザーファンド

今後も主として、米国の株式、リートおよび債券ならびに金を投資対象とし、先物取引等を活用した分散投資により、信託財産の成長をめざして運用を行います。各投資対象の比率については、ポートフォリオ全体に占める各資産のリスク割合が均等となることを目標に毎月見直しを行います。

また、残存期間の短い米国国債にも投資を行います。

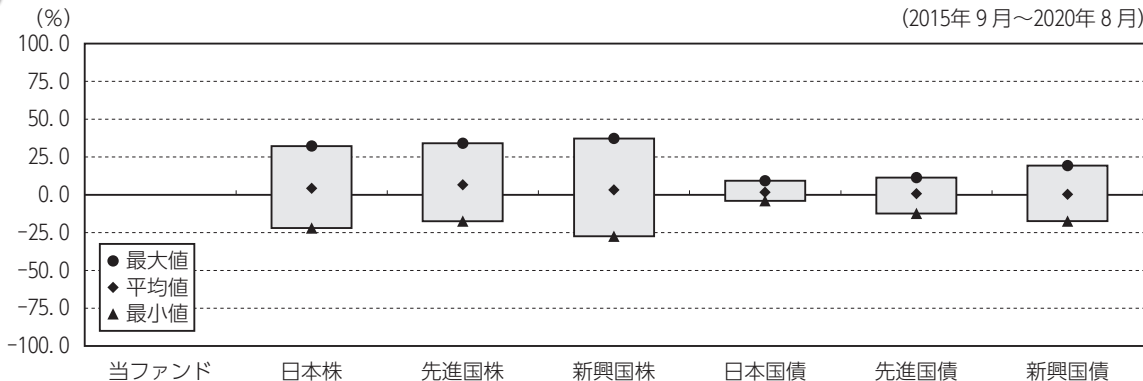


当ファンドの概要

商品分類	追加型投信／海外／資産複合	
信託期間	約9年11カ月間（2019年10月15日～2029年9月11日）	
運用方針	信託財産の成長をめざして運用を行ないます。	
主要投資対象	ベビーファンド	米国3倍4資産リスク分散マザーファンドの受益証券
	米国3倍4資産リスク分散マザーファンド	次の有価証券および先物取引 イ. 米国株式を対象とした株価指数先物取引 ロ. 米国国債を対象とした先物取引 ハ. 米国の不動産投資信託の受益証券または不動産投資法人の投資証券（以下「リート」といいます。）の指数を対象指数としたETF（上場投資信託証券）（以下「リートETF」といいます。） ニ. 米国リートを対象としたリート指数先物取引 ホ. 金を対象とした先物取引 ヘ. 米国国債
マザーファンドの運用方法	①主として、米国の株価指数先物、国債先物およびリートETFならびに金先物に分散投資を行ない、信託財産の成長をめざします。 ※運用の効率化を図るため、米国リートを対象としたリート指数先物取引を利用することがあります。 ※残存期間の短い米国国債にも投資します。 ②原則として、月次で下記の通りリバランスを行ないます。 イ. 各投資対象の比率は、ポートフォリオ全体に占める各投資対象のリスク割合が均等となることを目標に決定します。 ロ. 米国株式を対象とした株価指数先物取引、米国国債を対象とした先物取引、米国リートを対象としたリート指数先物取引および金を対象とした先物取引の買建玉の時価総額と、米国リートETFの組入総額の合計額が、信託財産の純資産総額の3倍相当となるよう投資を行ないます。 ③為替変動リスクを回避するための為替ヘッジは原則として行ないません。	
分配方針	分配対象額は、経費控除後の配当等収益と売買益（評価益を含みます。）等とし、当初設定から1年以内に分配を開始し、分配開始後は、原則として、分配対象額の範囲内で、下記イ. およびロ. に基づき分配します。ただし、分配対象額が少額の場合には、分配を行なわないことがあります。 イ. 計算期末の前営業日の基準価額（1万口当り。既払分配金を加算しません。以下同じ。）が11,000円未満の場合、基準価額の水準等を勘案して分配金額を決定します。 ロ. 計算期末の前営業日の基準価額が11,000円以上の場合、当該基準価額に応じ、下記の金額（1万口当り）を分配することをめざします。 (a) 11,000円以上12,000円未満の場合・・・100円 (b) 12,000円以上の場合・・・150円 なお、計算期末の前営業日から当該計算期末までに基準価額が急激に変動した場合等には、上記の分配を行なわないことがあります。	



代表的な資産クラスとの騰落率の比較



	当ファンド	日本株	先進国株	新興国株	日本国債	先進国債	新興国債
最大値	—	32.2	34.1	37.2	9.3	11.4	19.3
平均値	—	4.2	6.6	3.2	1.6	0.7	0.3
最小値	—	△ 22.0	△ 17.5	△ 27.4	△ 4.0	△ 12.3	△ 17.4

上記の図表は、ファンドと代表的な資産クラスを定量的に比較できるように作成したもので、過去5年間における年間騰落率（各月末における直近1年間の騰落率）の平均・最大・最小を、ファンドおよび他の代表的な資産クラスについて表示しています。

※各資産クラスは、ファンドの投資対象を表しているものではありません。

※ファンドの年間騰落率は、分配金（税引前）を分配時にファンドへ再投資したものとみなして計算したものであり、実際の基準価額に基づいて計算した年間騰落率とは異なる場合があります。

※ファンドの年間騰落率において、過去5年間分のデータが算出できない場合は以下のルールで表示しています。

①年間騰落率に該当するデータがない場合には表示されません。

②年間騰落率が算出できない期間がある場合には、算出可能な期間についてのみ表示しています。

③インデックスファンドにおいて、①②に該当する場合には、当該期間についてベンチマークの年間騰落率で代替して表示します。

※上記の騰落率は直近月末から60カ月さかのぼった算出結果であり、決算日に対応した数値とは異なります。

※資産クラスについて

日本株……………東証株価指数（TOPIX）（配当込み）

先進国株……………MSCIコクサイ・インデックス（配当込み、円ベース）

新興国株……………MSCIエマージング・マーケット・インデックス（配当込み、円ベース）

日本国債……………NOMURA-BPI国債

先進国債……………FTSE世界国債インデックス（除く日本、円ベース）

新興国債……………J.P. Morgan ガバメント・ボンド・インデックス-エマージング・マーケット グローバル ダイバーシファイド（円ベース）

※指数について

●TOPIXは東証が算出・公表し、指数値、商標など一切の権利は株式会社東京証券取引所が所有しています。●MSCIコクサイ・インデックスおよびMSCIエマージング・マーケット・インデックスは、MSCI Inc. が開発した指数です。同指数に対する著作権、知的財産権その他一切の権利はMSCI Inc. に帰属します。またMSCI Inc. は、同指数の内容を変更する権利および公表を停止する権利を有しています。●NOMURA-BPI国債は、野村證券株式会社が公表する国内で発行された公募利付国債の市場全体の動向を表す投資収益指数で、一定の組み入れ基準に基づいて構成された国債ポートフォリオのパフォーマンスをもとに算出されます。NOMURA-BPI国債の知的財産権とその他一切の権利は野村證券株式会社に帰属しています。また、同社は当該指数の正確性、完全性、有用性を保証するものではなく、ファンドの運用成果等に関して一切責任を負いません。●FTSE世界国債インデックスは、FTSE Fixed Income LLCにより運営されている債券インデックスです。同指数はFTSE Fixed Income LLCの知的財産であり、指数に関するすべての権利はFTSE Fixed Income LLCが有しています。●J.P. Morgan ガバメント・ボンド・インデックス-エマージング・マーケット グローバル ダイバーシファイドは、信頼性が高いとみなす情報に基づき作成していますが、J.P. Morganはその完全性・正確性を保証するものではありません。本指数は許諾を受けて使用しています。J.P. Morganからの書面による事前承認なしに本指数を複製・使用・頒布することは認められていません。Copyright 2016, J.P. Morgan Chase & Co. All rights reserved. (注) 海外の指数は、為替ヘッジなしによる投資を想定して、円換算しております。



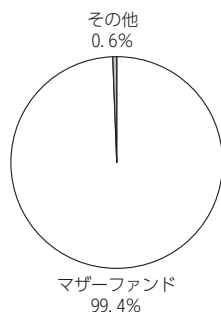
ファンドデータ

当ファンドの組入資産の内容

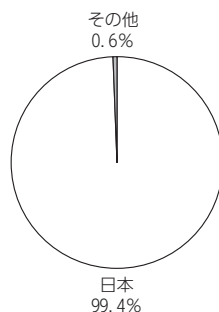
組入ファンド等

	比率
米国3倍4資産リスク分散マザーファンド	99.4%
その他	0.6

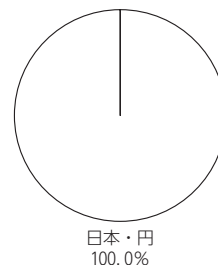
資産別配分



国別配分



通貨別配分



(注1) 上記データは2020年9月11日現在のものです。

(注2) 比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

(注3) 国別配分において、キャッシュ部分については「その他」に含めています。

*当ファンドは、上記組入ファンドを通じて実質的な運用を行っています。次ページの「組入上位ファンドの概要」には、組入上位3ファンドまでのファンドの内容を掲載しています。

純資産等

項目	第6期末	第7期末	第8期末	第9期末	第10期末	第11期末
	2020年4月13日	2020年5月11日	2020年6月11日	2020年7月13日	2020年8月11日	2020年9月11日
純資産総額	261,613,049円	283,371,300円	291,348,217円	286,410,033円	295,619,394円	300,272,044円
受益権総口数	252,236,295口	276,003,199口	274,725,551口	268,060,027口	260,007,068口	272,662,751口
1万口当り基準価額	10,372円	10,267円	10,605円	10,685円	11,370円	11,013円

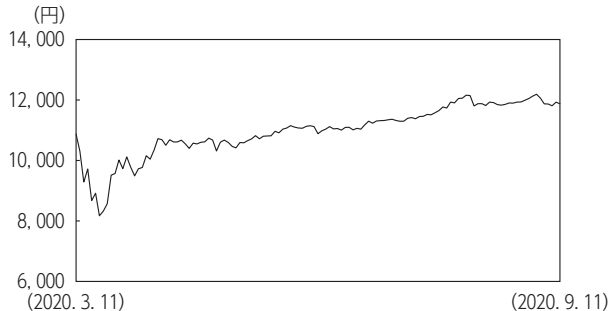
* 当作成期間（第6期～第11期）中における追加設定元本額は179,453,025円、同解約元本額は143,744,397円です。

* 組入全銘柄に関する詳細な情報等については、運用報告書（全体版）をご覧ください。

組入上位ファンドの概要

◆米国3倍4資産リスク分散マザーファンド（作成対象期間 2020年3月12日～2020年9月11日）

■基準価額の推移



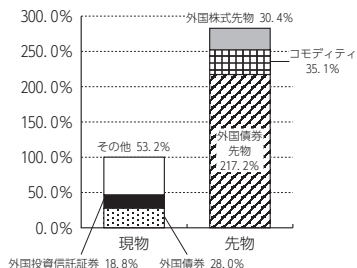
■1万口当りの費用の明細

項目	
売買委託手数料 (先物・オプション) (投資信託受益証券)	7円 (6) (1)
有価証券取引税 (投資信託受益証券)	0 (0)
その他費用 (保管費用) (その他)	3 (2) (1)
合計	9

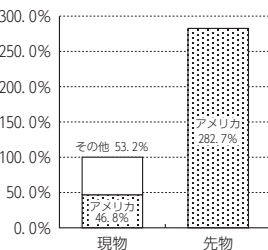
■組入上位銘柄

銘柄名	通貨	比率
US 10YR NOTE (CBT) 202012 買	アメリカ・ドル	217.2%
E-MICRO GOLD 202012 買	アメリカ・ドル	35.1
SP500 MIC EMIN FUT 202009 買	アメリカ・ドル	30.4
VANGUARD REAL ESTATE ETF	アメリカ・ドル	18.8
U. S. TREASURY BILL 2020/10/8	アメリカ・ドル	11.4
U. S. TREASURY BILL 2021/8/12	アメリカ・ドル	8.4
U. S. TREASURY BILL 2021/7/15	アメリカ・ドル	8.2
組入銘柄数	7銘柄（先物含む）	

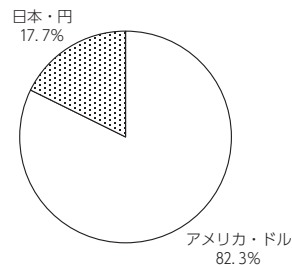
■資産別配分



■国別配分



■通貨別配分



- (注1) 基準価額の推移、1万口当りの費用の明細は組入ファンドの直近の作成対象期間のものであります。
- (注2) 1万口当りの費用の明細における費用（消費税のかかるものは消費税を含む）は追加、解約によって受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。費用の項目および算出法については前掲の「1万口当りの費用の明細」の項目の概要をご参照ください。また、円未満を四捨五入してあります。
- (注3) 組入上位銘柄、資産別・国別・通貨別配分のデータは組入ファンドの直近の決算日現在のものです。
- (注4) 国別配分において、キャッシュ部分については「その他」に含めています。
- (注5) 比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

*組入全銘柄に関する詳細な情報等については、運用報告書（全体版）でご覧いただけます。